鹿児島市とナポリ市の姉妹都市提携50周年記念

平 成 22年 7月 在イタリア日本国大使館



ナポリ市は、ローマ、ミラノに次ぐイタリア第3の都市であり、 ナポリ湾と雄大なヴェスヴィオ火山の風光明媚な光景は世界的 に有名です。

錦江湾に浮かぶ桜島を有する鹿児島市は、その風景がナポ リに似ていることから、古くから「東洋のナポリ」と呼ばれていま した。鹿児島市とナポリ市との間では、1955年頃から市民レベ ルでの交流が開始され、1960年には両市は姉妹都市となりま した。

生花で飾られた日本国旗とナポリ市旗 (記念コンサート会場にて)

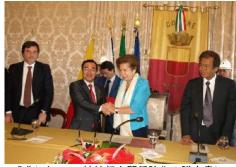
これまで、親善使節団の相互訪問や、青少年交流、鹿児島市・ナポリ通りやナポリ市・鹿児島 通りの命名など、活発な交流が行われてきたところですが、姉妹都市提携50周年を迎える本年、 ナポリ市で記念式典が行われました。

今回の記念行事にあわせ鹿児島市からは、森博幸鹿児 島市長をはじめ鹿児島市の政・財・学各界の要人から構成 される記念訪問団に加え、市民有志による文化交流団、高 校生等から構成される青少年訪問団の3団が参加しました。 ナポリ市側からは、イエルヴォリーノ・ナポリ市長をはじめ 市評議員が勢揃いし、カロテヌート・在ナポリ名誉総領事及 びディ・ジャンニ前名誉総領事も出席の下、盛大な歓迎を 受けました。



市長室で懇談。中央は森鹿児島市長夫

妻、右は安藤在イタリア日本国大使。



式典において、姉妹都市関係強化の議定書に 調印。一番左はカロテヌート・在ナポリ名誉総領 事。

7月9日に実施された

「姉妹都市提携50周年記念式典」においては、姉妹都市関 係強化の議定書に両市長がサインし、将来にわたる友好関 係を確かなものとしました。

在イタリア日本国大使館からは安藤大使が出席し、鹿児 島市とナポリ市との末永い交流の重要性を強調するととも に、まだ実現していないナポリ市長の鹿児島訪問を強く働き かけるなど、両都市の双方向での交流をさらに発展させら れるよう、関係者と積極的に意見交換を行いました。 式典に続き、場所を移して「鹿児島広場・命名式」がとり行われました。ナポリ市にはすでに「鹿児島通り」が存在しますが、姉妹都市提携50周年を記念して、新たに「鹿児島広場」が、日本人建築家・丹下 健三氏のプロジェクトによる新副都心、チェントロ・ディレツィオナーレ



と森市長。

に誕生しました。命名式の後は森 市長、安藤大使が地元テレビのイ ンタビューに積極的に応じ、貴重な 日本発信の機会とすることができ ました。

同日・夜には、ナポリの名所の一

つであるヌオーヴォ城に おいて、記念コンサート が開催されました。 鹿児

島側から高校生によるブラスバンド演奏と、おはら節・日本 舞踊などの踊りが披露され、ナポリ側からは、地元歌手によ るナポリ民謡等が披露されました。



鹿児島広場命名式の様子。



記念コンサートにおける、鹿児島の高校生による

ナポリ港に停泊する練習船・こじま。

なお、この時期には遠洋 航海中の海上保安大学校 の練習船「こじま」がナポリ

に寄港しており、同船関係者やナポリのコーストガード職員にも 関連行事への参加を呼びかけるとともに、「こじま」船上での昼 食会に鹿児島市・ナポリ市関係者が出席しました。日本とイタリ アは海に囲まれた国同士、また、鹿児島、ナポリ両市ともに海

ブラスバンド演奏。

上保安機関が所在するなど

共通点が多く、海上保安行政の日伊比較などに関し幅広い 意見交換を実現することができました。

また、鹿児島市民有志による文化交流団には、ナポリ訪問 の前に、ローマ・ティベリーナ島において7月6日及び7日に 開催された日本文化紹介イベント「イゾラ・デル・ジャッポー ネ」にも参加していただくことができ、ナポリのみならずローマ においても鹿児島文化を披露してもらいました。



「イゾラ・デル・ジャッポーネ」におけるおはら 節披露。

今般の記念行事を通じて、鹿児島及び日本とナポリの包括的な交流を実現することができ、日 伊間の経済的、文化的関係の強化に向けて大変実りの多い連携事業となりました。鹿児島市・ ナポリ市の両市関係者のご努力に心からの敬意を表するとともに、今後の交流関係の発展に、 当館としても惜しみなく協力していきたいと考えています。

(参考) 鹿児島市HP <u>www.city.kagoshima.lg.jp</u> 海上保安大学校HP <u>www.jcga.ac.jp</u>